

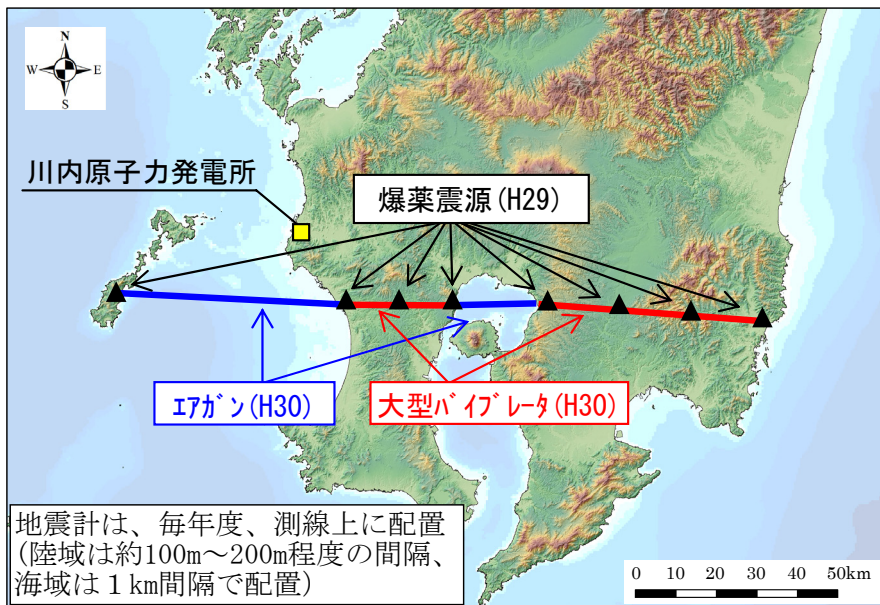
川内原子力発電所周辺における大規模人工地震探査による 南九州地域の地殻構造に関する研究について

1 目的

- 当社は、南九州地域の深部地殻構造と地震活動(活断層との関係)や火山活動(カルデラ直下のマグマ溜まりの状況)との関連を明らかにするために、大隅半島～甑島の約160kmに亘り、大規模人工震源(海域:エアガン、陸域:大型バイブレータ及び爆薬震源)を用いた地下構造探査を実施します。

本研究は、これまでの地下構造探査と比べ、探査深度や探査測線長は最大規模となり、南九州の地殻構造の解明に大きく役立つものと期待しています。

2 研究概要



探査測線の全体図



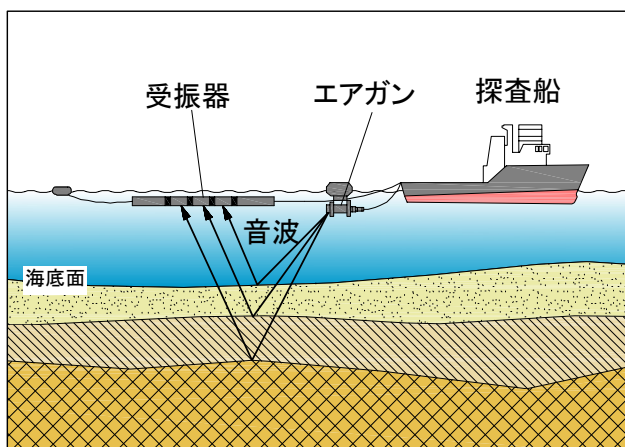
陸域の地震計



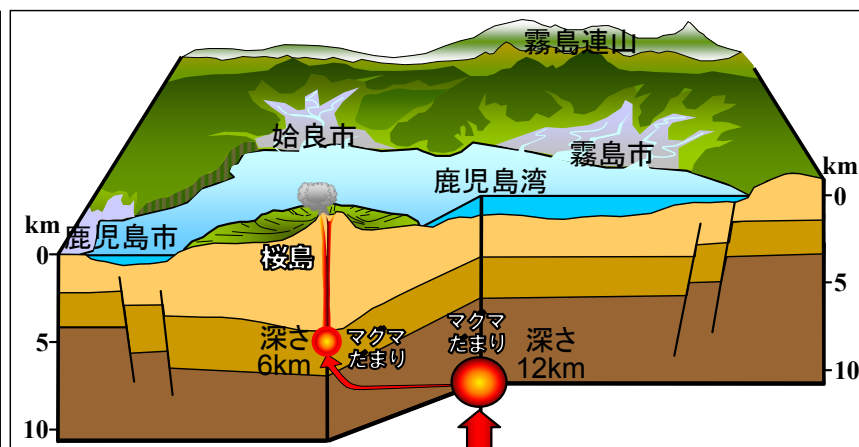
海底地震計



大型バイブレータによる調査例



エアガン震源による調査例



始良カルデラ及び桜島直下の深部地殻構造のイメージ

3 実施期間

- 平成29年度～31年度の3年間 (H29～30:調査, H31:解析)

4 実施体制

- 当社から、鹿児島大学への委託研究